

「櫻の記憶・蓮のトキメキ」のあらすじ・みどころについて

1 あらすじ

県民会館が誕生した昭和30年代から今日に至るまで、3世代にわたり音楽など芸術を通して県民会館に親しんできた家族の物語。

2020年4月、主人公の美樹と婚約者の望が、自分たちの結婚式に関して迷いを語る中、久保田藩家老渋江政光に出会う。400年にわたり、櫻とともに秋田の人々と自分の家族を見守ってきた渋江政光を通して、自分の祖父母が、音楽の喜びを力に愛情を育み、懸命に生きてきたことを知る。

主人公とその家族は、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症等、大きな災害に見舞われ、様々な壁にぶつかりながらも、芸術文化の力で困難を乗り越えていく。

2 みどころ

○明治時代の秋田県公会堂から始まる「文化の殿堂」である秋田県民会館の歴史を振り返りつつ、時代ごとの風俗や文化・芸術（成田為三、東海林太郎、藤田嗣治「秋田の行事」等）も紹介していく。

○千秋公園のハスは、美樹の祖父であり、画家を目指し、夢半ばで早世した孝三が、祖母明子への永遠の愛を込めた生きた証として絵に残したという、物語上重要なモチーフとなっている。物語終盤では、危篤状態の明子が、ハスの花にまつわる祖父との思い出により生きる意欲をとり戻すという奇跡が起こる。